

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当法人の基本理念である「地域への還元」の元に、地域住民と歩調を合わせながら地域に根ざしたサービス事業所を展開している。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	法人の基本理念に基づき、日常生活支援を行っている。ケース会議等における利用者へのケア視点等もそこに基づく考え方となるようにしている。	○	職員会議や学習会・ケース会議を通じて、職員一人一人が法人理念を理解し、日々の利用者との係わりに生かしていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域住民に対して、設置前から事業所の理念について説明している。地域運営推進会議を通じて、はるかを利用されている方の理解や協力を依頼している。又、交流イベント等を企画し、施設を開放することで、広く地域の方に知って頂いている。その中で地域の皆様に理解や理念を伝えていけるように行っている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に挨拶をしたり、外での会話を楽しんでいる。又、お花や、物を届けて下さったり、施設の年間行事にも参加して頂き、積極的に交流しています。開設以来、町内会の会合や、会議等に地域交流スペースを利用して頂いています。	○	今後も地域交流スペースを生かしながら、気軽に立ち寄れる場所や会合の場所として広く利用して頂きたい、また交流スペースが開いていない場合には和室にイスを持って来る等より活動できるよう配慮を続けていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に所属し、行事への参加・協力を行っている(古紙回収・早朝の清掃等にも地域の一人として実施)。地域の中学校行事にも参加している。はるかで行われる活動にも声をかけ、「敬老会」「秋の感謝祭」などでは町内会の多数の方が参加している。	○	地域の人にもはるか独自の行事に参加して頂けるようになってはきたが、老人会の方など、より多くの方が気軽に遊びに立ち寄って頂けるように企画等行っていきたい。又、町内会の方に留まらず、近隣の学生等、世代を超えて交流が出来るよう企画等を行っていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	2ヶ月に一回の地域運営推進会議を通じて、地域包括支援センターの方や町内会の方との情報交換を行いながら、施設の利用者、地域の高齢者等の暮らしに役立つ事はないか話あっている。結果、最近では地域の方からの相談が増えてきている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	外部評価を受けることで、自施設の運営を様々な角度から見直していきたい。評価されたことに対して、改善を行いながら、より良き施設を目指している。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	勉強会を計画し、職員の理解と活用意識向上に役立てていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	○	今後も学習会を定期的に行い、虐待防止に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者から、職員や外部の第三者委員等に不満や苦情を言われる事が少ない分、家族や第三者委員に施設を知って頂き、様々な目で運営の健全化を図っている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>突発的な病気については、その都度職員が付き添い通院を行い、結果はすぐ御家族に連絡・報告している。日常の様子などは、御家族の面会時や行事で来所された際に御本人を交えながらお伝えしている。また、「窓花新聞」を月1回発行し御家族へ送ることで、はるかでの暮らしぶり等をお知らせしている。 定期的な金銭の収支報告を行っている。</p>	○	<p>今後も、なかなか面会に来られない御家族に対しても、お便り等で様子をお伝えしていき、御家族との関係性を深めていきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱や苦情窓口が設けてあるが、日頃から御家族が遠慮なく意見や要望が言えるような、職員と御家族の良好な関係作りに努めている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的な会議を行いながら、職員の意見交換が出来る場を持っている。更には日常的にも職員同士がお互いの意見や思いを伝えられるよう意識している。</p>	○	<p>管理者、リーダー、職員が意見を提案し、受け入れる体制・雰囲気作りを心掛けたい。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>様々な希望に添えるよう、職員間で話し合いを持ち、利用者にあった柔軟な勤務調整を行っている。</p>	○	
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>人事異動に関しては、出来るだけ適切な人数かつ少人数での異動を心掛けている。 異動に際して、利用者の生活のペースを乱すことが無いよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○	利用者やご家族が、安心してサービスを受けられるよう、関わりながら安心できるサービス提供をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者やご家族にとって、「今」何が必要なのかを考え、その方に合ったサービス、関わり等工夫している。また、チームで共有しながら、職員全体で対応できるように努めている。	○	状況に応じて、関わりや様々な要望に対し、対応していきながら、その方に合ったサービス提供ができるよう、職員全体で取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂ける場合は、職員や他の利用者と話をしてし、安心して生活出来る場所と感じて頂けるような雰囲気作りをしている。入居されてからは、自分の居場所と認識して頂けるような空間作りや、他者と馴染んでいけるよう職員が場を取り持ったりと、工夫している。今まで過ぎて来た中で大事にしてきた事の継続に努めている。	○	利用者・ご家族・職員が常に相談協力できる関係を持ちながら、利用者本人が安心して生活出来るよう、工夫し関わりを大切にしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の関わりの中で、はるかでの出来事・家庭での出来事を話題にし、一緒に笑い合ったり、時には相談しながら過ごしていく中で、現在支えあえる関係を築いている。	○	常に謙虚な姿勢で、利用者と係わりながら、共に笑い・悲しみ等の気持ちを共有できる関係を築いていく。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族には、御本人の生活状況をお伝えしたり相談する等しながら、職員と一緒に御本人の生活を支援して頂けるようにしている。食事会等の行事で、一緒に過ごす機会を作っている。	○	利用者の御家族等の状況により難しいこともあるが、御家族や本人の思いを汲みながら関係をつなげていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人と御家族の思いを理解しながら情報交換を行い、お互いの関係が良好に保てるよう配慮している。	○	常に情報交換をしながらお互いが理解し合え、関係が更に深まるよう支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会等の規制は無く、誰もが気軽に来られるよう配慮している。また、御本人の生活歴や会話の中から、会いたい方や行きたい所への思いを汲み取り、実現する為の調整に努めている。電話をかけたたり、手紙を書く際の支援をしている。	○	生活の場が変わっても、長年慣れ親しんできた人や場所との関係が継続出来るよう、支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日、お茶会の時間や皆さんで活動する時間を設定し、皆さんが関わり合える時間を作っている。関わりが苦手な方に対しては、個々に対応しながら座る場所等も配慮している。	○	一人一人の思いや気持ちを考えながら、お互いに支え合えるよう支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	どのようなケースであれ、契約が終了したとしても相談等いつでも受けられる体制を整えている。	○	今後運営していく中で継続的な関わりを必要とするケースが多くあると思われるが、関係を断ち切らず、信頼関係が保てるよう努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を叶える事が出来るよう、本人の話や家族からの情報に基づいて把握に努めている。	○	利用者の思い、希望に耳を傾け、その方の意向に添った生活を過ごして頂けるよう努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係機関から情報収集をしている。しかし十分に得られないケースもあり、そのような場合は、本人との関わりの中で把握に努めている。	○	少しでも多くのことを知り、取り入れその人らしい生活を送って頂けるよう努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活の中で刺激になるような活動、行事を取り入れている。持っている力を把握し様々な生活場面で引き出せるよう考え努めている。加えて毎日のバイタル測定・食事排泄の状況、声掛けに対する反応など、心身状態等の把握にも努めている。		チーム職員にとどまらず他チーム職員や看護職員、ケアマネジャー等異職種の方々とも共有し話し合いながら、その方が安心出来るよう取組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人はもちろん家族・他職種・関係医療機関との情報交換に努めている。月一回の定期的な会議の開催。職員同士の情報の共有の為、チームノートを活用している。	○	楽しく、生き生きと日々暮らせるようにプラン作成を心掛けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画書に基づいたケア、定期的なモニタリングを実施している。本人の状態に変化が生じた場合は、適時会議を行い協議している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に日々録を書いているが、漠然と様子を書きがちである。チームノートの活用で、職員間で情報を共有しケアの実践に努めている。	○	日々録は、焦点を絞った書き方の工夫をし、ケアの実践に有効に活用出来るようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設内に隣接するデイサービスの利用者と交流の機会が増えてきた。はるかの行事や、日常で一緒に活動する機会を持つことで顔馴染みになり、会話やお茶を楽しむ機会が出来た。	○	今後も、多機能性を活かす工夫・場面を考え、地域交流も含め実行できるよう努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	2ヶ月に一回の地域運営推進会議を行い、地域資源との協働を行っている。避難訓練での消防の協力、学校行事への参加など、支援を協力して頂いている。また、町内会の回覧板等での情報発信に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問歯科診療にて、歯の治療や義歯の調整、口腔ケア等をおこなっている。福祉用具の購入では、事業者と相談しながら行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が委員として参加して頂き、情報交換・意見交換をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との情報の共有を密にし、利用者・家族が納得のもと適切で安心できる医療を受けられるよう支援を行っている。また、家族が立ち会えない場合には、職員引率により、経過・結果の報告をしっかりと行っている。	○	今後もかかりつけ医との情報共有を密にし、しっかりと相談をし、本人の生活が安定し、ご家族が安心して頂けるよう支援していく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近隣に関係医療機関があり、認知症に関する診断や治療、対応方法等について、指示や助言を頂ける医師を確保している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師がおり、全体の利用者とのコミュニケーションを図りながら、健康管理を行っている。	○	今後も看護師との連携をとりながら、日々の利用者の体調管理に気を配り、安心して日常生活を送って頂けるよう努める。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が急病や容態の変化等で医療機関を受診し入院することになった場合でも、ご家族や医療機関と相談し、以後の対応を協議しながら治療できるよう対応している。また、入院時・入院中・退院前など、こまめに職員が介入していくことで、ご家族の不安の軽減に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応については、その都度話し合いを持っている。ご家族と一緒に病院を受診し、医師を交えた相談も行っている。その際の報告書など、施設全体で情報の共有を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	施設での生活が難しくなった場合、その後の行き先等の相談もしっかりと受け、対応していく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	そのような事例はないが、相談があれば随時ご本人、ご家族に理解・納得した住み替えができるように支援していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日々の暮らしの中で、利用者に不快な感情や言動がないように、職員間で常に互いが注意し合えるような関係作りをしている。利用者を尊重できる気持ちを忘れず、安心して日常の生活を送れるように支援を行っている。	○	言葉づかいや接し方がふさわしくないと気付いた時は、職員同士で注意し合うようにしながら、利用者が安心した生活を送れるよう取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者本位の生活を基本としていて、強制的に行わせたり、本人の拒むことは行っていない。利用者本人に、できる限りわかりやすく話すことを心掛けている。	○	表情や態度などから思いが汲み取れるように、関わりを密にしていき、理解を深めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に生活して頂けるように心掛けているが、集団生活を営む場でもあるため、食事や掃除・洗濯などについては、ある程度の時間に合わせて生活して頂いている。	○	一人ひとりの生活のペースは様々であり、衛生面(洗面・入浴)にも注意を払いながら、本人の意向に沿った援助を行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみや身体の衛生面にも気を使い、それぞれにチェック表も導入している。理容・美容の出張サービスも利用しているが、本人の希望のお店の利用についても自由であり、付き添い・引率を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを考慮して代替え食を準備するなどの工夫を行っている。また、食形態に関しても、利用者一人ひとりの状態に応じて、食べやすい形態にしている。利用者のできる部分を見付け、職員と一緒に食事の準備・片付けを行っている。	○	食べたい意欲を引き出すため、買い物から一緒に行い、好きな物、得意な物を作れるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは喫煙場所にて吸えるようにしている。食事とのバランスを考慮しつつ食べたい時に食べて頂けるよう、量や回数の工夫をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄のリズムを把握して、声掛けや誘導をしている。羞恥心に配慮して介助をしている。心身の状態の変化に応じて、下着や尿とりパット等を見直し変化させている。	○	可能な限りトイレで排泄できるように支援していきたい。失敗を減らせる工夫を考えていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりのだいたいの入浴日は決めています、その日の体調・希望に合わせて入浴して頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個室やホールで自由にくつろげるようになっている。状態に応じて、ベッドや床に布団を敷いて休んで頂くなど、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの趣味や楽しみを、できる限りできるように支援している。趣味のない方もいらっしゃるが、カルタ・トランプ・散歩・買い物等、生活に変化をもたせるよう配慮している。	○	個人での活動の他にも、みんなで楽しめるような生活ができるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはお金は所持されていないが、こちらで預らせて頂いている方に関しては金庫で管理し、本人の必要に応じて手渡し、支払を行っている。併せて、出納帳の記入も行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節に合わせた催し物や、おやつ・外出等、あらかじめ計画していなくても出かけられるようにしている。入居者提案により、買い物へ出かけたりと、一人ひとりに合わせた外出支援ができるようになってきている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	冬季間の外出は、寒さや雪でかなり制限されてしまうため、暖かい時期に花見やドライブ、公園へピクニックなど楽しんで頂けるよう工夫している。	<input type="radio"/>	ご家族のご理解や協力も必要であり、今後はご家族も一緒になって参加できる企画も考え、ご家族同士・ご家族と職員との関わりの場を作れたらと思います。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	常識の範囲内の時間(深夜・早朝を除く)では電話をかけて頂くのは自由で、ご家族・知人などの電話も受けられる。手紙等の受け取りや発送も自由である。	<input type="radio"/>	手紙や電話、荷物を送ってくださった方への御礼等をしっかりと行っていき、外部との関係がきれてしまわないよう配慮していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人の面会は基本的に自由としている。	<input type="radio"/>	近隣住人との交流を深め、新しい友人ができるよう支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な勉強会を実施し、職員全員が身体拘束についての知識を持ち、身体拘束を行わないような工夫をしながら、利用者の安全・安心に努めている。また、目に見えない拘束(言葉づかい等)に対しても見落とさないよう注意を払っている。	<input type="radio"/>	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	本人が希望した場合のみ居室の鍵をかける場合はあるが、日中は玄関・居室の鍵は使用していない。夜間のみ玄関に鍵をかけている。	<input type="radio"/>	
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、個室で過ごされているときは、時々声掛け等をして様子を伺っている。夜間は定期的に見回りを行い、利用者の状況の変化に対応している。	<input type="radio"/>	今後も継続しながら、一人ひとりの安全を確保していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ナイフやハサミ等の刃物類、裁縫箱はホームの物を使用し、個人では所有していない。使用の際は、利用者の状態に応じて、危険のないよう配慮している。	<input type="radio"/>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を中心に勉強会を行ったり、ひやりハットや事故防止対策に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法や心肺蘇生法など、赤十字救急隊から指導を頂いている。緊急時の連絡・対応マニュアルに沿った対応をしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の方々にも呼びかけを行い、避難訓練を実施している。日頃より近隣住人との関わりを大切にしており、災害時等には協力して頂けるようお願いしている。	○	特に夜間の場合は夜勤者しかいないため、急ぎを要する利用者の避難に関しては不安があるので、地域の方々や警察・消防の協力が得られる体制を作っていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	施設職員や協力病院医師らで、常に利用者の状態を把握し、ご家族に対して、その都度様子や病状を伝え、その時起こりうるリスクや、そのリスクの対処法を検討し、ご家族に説明させて頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体温・血圧・排尿、排便回数・食事摂取量等を毎日測定・観察し、利用者の容体変化の把握に努めている。その都度ご家族への連絡や必要に応じた受診を行っている。	○	今後も利用者の日頃の様子を常に把握し、変化に気づき、相談しながら対応していきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療機関・調剤薬局から処方された薬は、基本的に看護師が日付を記入し朝・昼・夕に分け、服薬時には日付・名前・いつの薬かを職員が復唱し、確実な服薬をして頂いている。副作用・注意点など職員同士で確認し服薬して頂いている。	○	利用者がどんな状況で、どんな薬を服薬しているのか職員で情報を共有し変化があった場合には迅速に対応していきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員間で確認し服薬して頂いている。排便チェックを必ず記入し、その方の排泄リズムを知るとともに、水分・食事摂取の状況確認にも努めている。	○	毎日の排便のチェックを忘れずに行うとともに、その方に合った予防を取り入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯科の指導のもと、一人ひとりに合った口腔ケアに努めている。 職員は利用者の不足の部分をお手伝いさせて頂いている。	○	今後も歯科と連携し、口腔ケアを徹底して行っていく。 一人ひとりの口腔内の状態を常に把握し、必要なケアを歯科と相談し行っていく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の好みに合った食事・量等を気にかけて提供している。 また、身体状況・疾病の状態等に気をつけ、対応している。 水分量に関しては、取りすぎてしまう方もいるため調整させて頂いている。	○	今後も、一人ひとりの体調等の変化に応じ、臨機応変に対応していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設置しており、定期的に会議を行い、その内容を各部署に提示し、感染予防を呼びかけている。 また、ピューラックスの使用・ハイター使用しての消毒等、対策を行っている。 タオルの個別化にも取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器や調理器具は毎回洗浄した上、食器洗浄機で洗浄している。 冷蔵庫は定期的に拭き掃除を行い、不衛生にならないよう、残り物の食品管理にも注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関ドアはガラスの面が多いため、丸いシールを張り、利用者がぶつからない様工夫している。 また、玄関ポーチにはイスとテーブルのセットを設置しており、くつろげるスペースもある。 コルクボードも設置しており、行事のお知らせ・チラシ・地域のお知らせなど様々な情報が得られるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング内には、季節の感じられる飾り付けや、お花などを飾っています。 また、行事等に向けて皆さんで作った貼り絵や習字等を飾るなどし、皆さんに楽しんで頂ける工夫をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	みなさんでお話をしたりテレビを見られるスペース以外に、一人で、周りを気にすることなく過ごせるスペース作りにも気に掛けています。 ゲーム類も用意し、自由に過ごせる空間作りに努めています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、それぞれの利用者の使い慣れた物、馴染みの物があり、ご本人、ご家族と相談の上、利用者が過ごしやすい空間作りに努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除中や気温の上昇にともない、冬場でも最低1～2回はリビング、居室の換気を行うようにしています。 利用者の気持ちや身体的負担も考えながら行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	利用者が動くと考えられる場所には、手すりがあります。それ以外の場所では、テーブルやソファなど、利用者が少しでもつかまって歩けるような環境作りを行っています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者一人ひとりの持っている力を見極め、負担のないよう、食器洗いやテーブル拭きなど行って頂いているが、常に職員が見守り付き添い、困ったことや混乱が起こらないように配慮している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑やプランターに、花や野菜などを植え、皆さんと一緒に育て、収穫し、楽しんで頂けるような工夫をしています。	○	今後も、皆さんが楽しめるような様々な空間活用を考えていく。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	① 利用されるに際して、事前に本人・家族との希望や思いを聴取し、なるべく一人ひとりの生活リズムに合わせられるよう支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	① 業務としての職員の動きはあるものの、職員が意識して利用者の隣に座ることをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	② 利用者一人ひとりが自由に「思った時に思った行動」が出来るように配慮している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	① 本人の楽しみや長年行ってきたこと・得意なことを、サービス利用しながら行っていけることで、もう一度活躍の場を持って頂く事が、生き生きした生活ができる支援を行っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	② 四季折々の季節を感じて頂けるような外出の企画を行っていると共に、普段の生活でもちょっとした買い物を行えるよう配慮している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	① 医療機関との連携や定期受診の情報、看護師への相談等、利用者の体調の状態を把握しながら行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	② 様々な状況に対し、いち早く気づき対応できているため、利用者は安心して過ごしていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	② 送迎の際や泊まりの際、定期訪問等に必ずご家族の思いや不安がないか聞けるよう配慮を行っている。その際に少しでも困った事があれば、すぐに訪問させて頂き、最良の改善方法を模索していく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③ 地域交流スペースを開放し、より多く地域の方々に利用して頂けるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	② 運営推進会議が家族・利用者との交流会などを開催しながら、少しずつではあるが理解者・応援者は増えていると思う。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 利用者と色々な活動を行いながら、職員自身も楽しんで働いていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	① 日々の生活に楽しみや友達が出来たと喜ばれている方と接していると、ある程度満足されているのではないかと考える。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 利用者の表情や家族の思いを感じながら接していると、現在は概ね満足されているのではないかと考える。

・口腔ケアの積極的な取り組み、協力して下さっている歯科医師、衛生士との定期的なカンファレンスを設け、利用者の日々の口腔ケアに活かしている。

・畑を借用し、利用者の皆さんと育て、収穫し、食べる楽しみを作っている。

・はるかとしての行事(感謝祭、運動会、敬老会等)を企画し、町内の皆さん、ご家族、他事業所等との連携を密にし、はるかを少しずつ理解してきて下さっている。